

令和6年度 江戸川区立第六葛西小学校 学校関係者評価 年度当初・中間報告書

学校教育目標	◎考える子○思いやりのある子○やりぬく子○元気な子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○児童一人一人、教職員一人一人が輝き、笑顔があふれる学校 ○主体的に考え活動し、他者と豊かにかわる子供 ○自己研鑽に励み、互いに学び合い、高め合う教職員
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>・ICTを活用した授業実践を3年間行い、教師・児童ともにICT活用能力がより一層向上した。 <課題>学習の基礎基本の定着や思考力、表現力の向上を図る。		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた改善策
				取組	成果	成果と課題	評価	
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・習熟度別指導ガイドラインをとり、算数の少人数指導を一層強化し、引き続き個別最適な学習の推進と基礎・基本の定着を図る。 ・新課程等を機に読解力向上教材を活用し、読解力向上を目指す。 ・東京ベシクドリテストを4月、9月、1月に実施し、確実に算数の学力向上を図る。 ・各学期1回の江戸川子Study week 1の実施を通して、家庭でのライシードの活用を推奨する。 ・外部委託による放課後補習教室(2～6年)を週1回実施する。 ・年3回の校内授業観察会、校内研修や月1回程度の若手教員育成研修(フレッシュワースの会)を実施する。 ・年8回の区小教研や各種研究会での学びを校内で交流する。	・児童発達調査において「国語の学習内容はよく分かりますか」「算数の学習内容はよく分かりますか」の肯定的回答を83%以上にする。 ・東京ベシクドリテストの正答率(2～6年)を70%にする。 ・保護者アンケート先生たちは、わがみやすい授業を目指し、授業を工夫している。」の肯定的評価を90%にする。					
	＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・読書分類の割合の最適化を目指し、近隣の区立図書館やPTAの図書ボランティアと連携し、図書室の環境整備を継続して行う。 ・保護者や外部機関との連携を図りながら、朝読書や読み聞かせ、読書科の授業などをとし、読書の楽しみや書誌による調べ学習のよきを見出せるよう指導する。 ・読書ノートを活用する。 ・江戸川川へる学習コンクールに向けて、情報の分析や整理の仕方、自分の考えを表現する方法を指導する。 ・区立図書館との読書科連携授業を各学年で年1回実施する。	・90%以上の学級で江戸川川へる学習コンクールに向けて、読書ノートを活用した授業を行う。 ・読み聞かせボランティアと協力し、すべての学級で読み聞かせを月に1回行う。 ・図書整備ボランティアと協力して月に2回学校図書館を整備する。 ・区立図書館職員によるブックトークを各学年年間1回以上実施する。 ・読書月間に教職員による本の紹介を行う。					
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・運動意欲・健康・体力の向上に向けた取組の実施・充実	・体力向上への意欲付けと運動習慣の定着を図るため、調練びを活用した取組を休み時間に実践する。 ・体力づくり重点月間を実施する。 ・運動会の実施方法を改善していく。	・なわとびのワークを学期に1回ずつ、計3回(6月・10月・2月)実施する。 ・6月実施の体力テストにおいて、平均値を都平均と同水準にする。 ・運動会に関する保護者や外部関係者の肯定的評価を90%以上にする。 ・運動会特別時数を2週間から3週間に増やし、健康面・体力面での負担を軽減する。					
	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導、各教室のiPad活用等の実施・充実 ・エンパワーメントの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・特別な支援が必要な児童への学校生活支援シート、個別指導計画やその評価について、保護者と共有し、支援の改善を図る。 ・特別支援教育委員会を年に1回実施する。 ・特別支援教室専門員、スクールカウンセラー、特別支援教室巡回指導員、スクールソーシャルワーカーとの連携を図る。 ・特別支援教室校内研修を年1回実施し、支援について共通理解を図る。 ・副籍交流を実施する。	・配慮、支援を要する児童の把握を100%にする。 ・特別支援教育委員会の年4回実施を達成する。なお、必要があれば臨時校内委員会を実施する。 ・特別支援教室校内研修の年1回実施を達成する。 ・手紙による学際交流1名、直接交流2名を行う。					
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QLの活用	・毎週金曜日生活指導夕会を行い、児童の情報や対応、生活指導連絡協議会の報告などを共有する。 ・年5回の児童アンケートを実施し、活用する。 ・いじめ対策委員会を年3回以上実施し、組織的に対応する。 ・いじめや不登校に関する情報ファイルを作成し、日常的な情報の共有を行う。 ・hyper-QLの実施により児童の人間関係を把握し、学級経営の充実などに活用する。 ・日常的なSSWや児童相談所など、他機関との連携を図る。 ・各年だけでなく、対策委員会や、学校全体で生活指導上の問題点について対応していくよう校内体制を整える。	・毎週金曜日に生活指導についての校内連絡会を実施する。 ・年3回のいじめ防止のアンケートを実施し、いじめ発見の機会を増やし、いじめ防止に努める。 ・不登校については、関係機関とつながりのない児童数を0にする。 ・いじめに関する調査において未解決の事実を10%以下にする。 ・保護者アンケート「学校は、子供たちの生活の様子を見守りながら、いじめや不登校などがない学校にするために取り組んでいる。」の肯定的評価を80%以上にする。 ・ふれあい月間(6月、11月)と2月の3回に分けて保護者に向けた生活指導たりを作成し、いじめや不登校についての理解を促していく。					
	＜目次(圖)の取組の積極的な発信＞ ・学校(圖)ホームページの充実等 ・学校(圖)公開の実施・充実	・HPやNotoraを活用しながら、学校だより、学年だより、その他学校からのお知らせを配信する。 ・学校日記のページに学校の様子や給食の献立を毎日載せる。 ・学校説明会のお知らせを載せる。 ・学校行事の変更や学年行事などについては、決定次第、情報発信できるように努める。	・保護者アンケート「学校だよりやホームページなどで情報を発信している。」の肯定的評価を95%以上に上る。					
地域に広く開かれた学校(園)の実現	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・保護者や地域、学校評議員などからの日常の連絡や個人面談、運動会・学校公開・学習発表会などの行事からアンケートを行う。 ・アンケートの結果をもとに地域、保護者、そして児童にとって何が最善かを考えながら、教育活動を見直していく。	・保護者アンケートで各項目の肯定的評価を80%以上に上る。					
	＜PTA・地域との連携＞ ・PTA活動や地域との連携を通じた心豊かな児童の育成	・サマーキャンプ、ろくこまつりなど、PTAと協力して開催する。 ・ホテル姉妹校協力委員会を定期的に開催し、ジャナジヨイ小学校の児童を招待するなど、様々な交流を図る。	・PTA行事で年2回以上の教員参加を目指す。 ・ホテル姉妹校協力委員会を学期に一度開催する。 ・50周年記念式典に合わせて11月初旬に児童集会や授業中の直接交流を図る。					
特色ある教育の展開	＜学校における働き方改革プラン＞ ・「学校における働き方改革プラン」に基づく取組の実施	・SSSを効果的に活用する。 ・月1回定時通勤日を定直し、保護者に周知する。 ・文書のバーレス化を推進する。 ・会議で話し合う内容の精選をする。 ・自動応答メッセージによる電話対応を実施する。	・毎月の勤務時間において、在外勤務時間45時間以上の職員を0に抑える。 ・会議の資料をクラウド上に保存する。 ・会議にのける時間を平均40分以内にする。 ・年を通して同じ時刻に自動応答メッセージが流れるよう設定し、その時間を保護者に通知する。					